

2018年5月31日

岐阜県知事 古田 肇 様

## 長良川の環境改善を求める要請書

よみがえれ長良川実行委員会 共同代表 粕谷 志郎  
亀井 浩次

平素から岐阜県政へのご尽力に感謝いたします。

私たちは、長良川を愛し、自然豊かな長良川を取り戻して未来に手渡したいと願う者の集まりです。

河口堰が閉鎖されて23年が過ぎようとしています。堰周辺にはヘドロが厚く堆積し、ヤマトシジミは捕れなくなりました。長良川は海と断ち切られ、サツキマスなどの回遊魚は激減しました。長良川のシンボルである鮎は、人の手が加わらないと絶滅する危惧が持たれています。淡水湖となった下流部ではヨシ原が広範囲に消滅し、そこを生息の場としていた多くの生きものが消え生態系が破壊されています。

愛知県では環境改善を目指して、河口堰の開門調査を提案しています。私たちは流れの障害物であり、水位を上げて堤防を圧迫し続ける河口堰の存在にも危機感を持っています。長良川の環境改善と地震・洪水など危機管理の面からも、岐阜県が先頭に立って河口堰の開門にむけた取り組みに着手されることを求めます。

木曽川水系連絡導水路事業が始まって10年になりますが、流域住民の強い反対の声と国の「凍結」判断で、1mの工事もされていません。しかし国と事業者は、事業継続を目指し毎年約2億円もの税金を本事業に投入しています。積極的に事業継続を求める世論は全くありません。県民は、徳山ダムの水を長良川に流すことに強い危機感を持っています。岐阜県は、根拠のない東濃可茂地域の渇水対策論の喧伝を止め、長良川の環境を守るために国と事業者に速やかな事業中止を求めるべきです。

長良川の上流部では、内ヶ谷ダム建設がすすめられています。自然豊かな貴重な渓谷が壊されました。県民にどんな利益をもたらすのか理解されないままの事業です。速やかに工事の中止を求めます。

長良川の環境改善をめざし、下記の事項を要請いたします。よろしく願いいたします。

## 記

1. 木曾川水系連絡導水路事業について長良川の環境悪化の危惧を表明し、「事業の中止」を求めること。本導水路事業にかかわる東濃地域の渇水対策論は取り下げること。
2. 長良川河口堰の「開門調査」に向けた取り組みを行うこと。長良川河口堰調査検討委員会と県民調査団の運営は県民に開かれたものにする事。
3. ダムによらない伝統的防災施設施策の充実をはかり、内ヶ谷ダム建設工事を中止すること。本事業の費用・便益を明らかにすること。

以上。